

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000096		
法人名	社会福祉法人 福壽会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	佐賀県佐賀市諸富町諸富津209番地3		
自己評価作成日	平成29年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年8月10日	外部評価確定日	平成29年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境の下で利用者が有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう支援しています。利用者の意思及び人格を尊重し、常に入所者の立場に立ったサービスの提供に努めます。共同生活の中で役割を持ってもらい、そのことで達成感や満足感を得られるよう介護サービスを提供します。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>平成15年に開設され、常に利用者の人格と尊厳を尊重し、サービスの質の向上を目指して利用者の支援に臨んでいる事業所である。事業所は二階と三階の2ユニットで、利用者は家庭的な雰囲気の中で毎日を自分のリズムで暮している。各階の談話室からは筑後川や昇開橋が目に見え、刻々と変わるその景色は、利用者の心を癒してくれる。園内にあるさくら並木は、開花時期には地域住民にも開放され、利用者との交流の場ともなっている。利用者は外出の機会が多い。散歩、買い物、馴染みの場所等への日常的な外出支援は勿論のこと、四季折々のドライブやバスハイク、外泊やお墓参り、法要への参詣など利用者の希望に応じている。季節感を感じさせる行事も多い。</p> <p>普通入浴が困難な方のための特殊浴槽、普通入浴の方の檜風呂や家庭的な浴槽を備えた浴室では、ゆっくりとした入浴時間がとられている。自立を促す排泄支援、対面式の台所、思い思いに過ごせる談話室の構成、移動美容室の利用、その他利用者主体のサービスや工夫をいたるところで見受けられる。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(2階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(3階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法令に準じた運営理念を定め、職員が理念を理解できるよう職員が目につくところに掲示している。 ・職員が事業所理念を理解できているか職員にアンケートや勉強会を行っている。	同左	管理者の交代を機に、理念を再検討し、現在の理念を創り上げている。理念の具体的な姿を管理者と職員が意見を交換しながら追い求めている。職員は、理念を常に意識しながら、毎日の支援に臨んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・母体施設とも共同で、地域住民へ施設開放などの働きかけを行っている。 ・近隣住民と花見行事を通じた談笑や、防災訓練や水害訓練を通して地域との連携を密にし交流。	同左	ホーム周辺の道路や港の清掃活動を自主的に行ったり、自慢の桜の花見に訪れた住民と交流を行う等、地域とのつきあいが出来ている。また、管理者が地域の住民である利点を生かして、地域の情報を把握している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域包括支援センターへ、認知症についての相談支援ができる旨の広報を行っている ・グループホーム玄関に認知症のパンフレットを設置し面会家族や地域住民の訪問時に渡している。	同左	/	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、家族の要望などに一つ一つ応え、サービスの向上に努めている。 ・参加出来なかった家族には会議内容を文章で郵送している。	同左	施設の利用状況、リスク報告等定例報告の他に、その時に応じて行事の持ち方、職員の異動状況と職員募集の件、利用者の状況の変化に伴う支援の在り方等多岐にわたって意見が交換されている。リスク報告に伴ってセンサーマットの使用を現在検討中である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市町村や地域包括、民生委員等に運営推進会議への出席を求め、グループホームの現状を伝え、サービスの向上のためにアドバイスを貰っている。 ・グループホームの空所状況などを、月に一回、中部広域連合へ報告している。	同左	主に運営推進会議の機会を通して、現場の実情や課題、サービス内容、情報等を共有し、運営に活かしている。災害時や緊急時の対応についても連携関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(2階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(3階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・外部研修に参加し、研修内容を内部勉強会で発表し、介護職員の意識向上に努める。 ・事業所内研修で、高齢者虐待防止法に基づいた身体拘束についての研修を行っている。 ・見守りを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	同左	諸研修会等を通して、身体拘束のない支援への全職員の意識が高い。契約時にも身体拘束や行動制限がない暮らしを説明している。自傷行為の防止等やむを得ない場合は、家族の了承を得て短期間の行動制限もあるが、見守りで解決を図っている。エレベーターは、防犯上、また、安全管理のために暗証番号による使用制限がとられているが、職員が利用者の希望や様子を察して一緒に戸外に出る等、抑圧感のない暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待の外部研修に参加し、研修内容を内部勉強会で発表し、職員の意識向上に努める。 ・法人内での虐待の研修に参加し意識向上に努めている。	同左		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護、成年後見制度の研修に参加し知識を深めている。 ・家族にも入所時に権利擁護について説明し、相談して頂けるように支援している。	同左		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居に際して契約書及び重要事項説明書の内容の説明を行い、同意を得ている。 ・ケアマネジャーも同席してこれまでの生活歴や不安、疑問点を尋ね、理解納得し安心できるように心がけている。	同左		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会、運営推進会議に意見を出していただき、それに対し返答を行っている。 ・家族が気楽に話しかけられる雰囲気作りを心がけている。 ・玄関に提案箱を設けており、提案により改善された事案もある。	同左	面会時や家族会の折りには、できるだけ話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。そこで出た意見や要望は職員で協議し、サービスの質の向上に活かされている。親しみの持てる全職員の紹介が掲示されているのは、家族の要望を取り入れた一例である。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(2階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(3階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・介護士会議だけでなく日頃から、スタッフの意見や提案を聴くようにしている。 ・緊急時には随時話し合いを行っている。	同左	職員の自由な発想や提案が運営に活かされている。季節に合った諸行事、多方面にわたる外出先、各月の支援等が家族にも具体的に見える掲示物、家族の金銭負担の軽減、その他運営に活かされている事例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員と意思の疎通を図り、働きやすく、やりがいのある、明るい職場作りを心がける。 ・業務改善を図り、超過勤務がないように勤務形態を整備している。 ・委員会を設置し職員が委員長となり自主性を持って働く職場を目指している。	同左		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・各種研修会への参加を促し、研修後は周知を図っている。また理解力不足の職員に対しては個々の能力に合わせて理解できるように細やかな説明を行うよう心がけている。	同左		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修会や講演会、包括支援センターの地域ケア会議等に参加し、他の施設との交流を図っている。 ・他の施設に管理者、職員と見学に行き、サービスの向上に努めている。	同左		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者が何でも気軽に相談できるような雰囲気作りや関係作りを心がけている。 ・要望が無いが、本人に尋ね、出来る事は可能な限り対応している。 ・自宅で使用されていた家具や持ち物を持参してもらい安心感を確保するように努めている。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(2階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(3階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・こちらから声掛けを行い、家族が困っている事はないか尋ね、話しやすい雰囲気作り、コミュニケーションを取りやすい関係を築くよう努めている。 ・提案箱や苦情解決委員会等の情報を伝えている。	同左		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者、家族の希望に耳を傾け、ケアマネジャーにアセスメントをふまえ、早期にケアプランを作成している。 ・他のサービス利用も含め、ケアマネジャーの意見を参考にし、意向を確認しながら検討を行っている。	同左		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の出来る事は、行ってもらい、頼りにすることでお互いの暮らしを共にする家族の様な親しみのある関係を築いている。	同左		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族が気軽に訪問できるような雰囲気作りを心がけ、家族と共に利用者を支援している。 ・好みの食品など可能な限り持参してもらい家族からの支援を大切にしている。	同左		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族やご近所様、友達の面会を入所申込みの際に推奨している。 ・利用者の体調に合わせて外出、外泊の機会を持ってもらえる様に努めている。	同左	アセスメント等で利用者がこれまで大事にしてきたものや好み、思い出の場所等が把握されている。また、契約時や家族と顔を合わせた時に、知りあいや近所の方等の来所をお願いしている。散歩やドライブ等の時、かつての思い出や記念碑にまつわる話、仕事柄身に沁み込んでいる地理等が出てくる。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(2階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(3階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士が仲良く過ごせる場所を作り、お互い助け合える作業(貼り絵など)を提供している。 ・行事などを通して他のユニットや母体施設との交流を図っている。	同左		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去後も、利用者や家族に対しては、出来る限りの相談支援をしている。 ・その時の状態に応じた他施設の情報提供やアドバイスを電話や面会によって行っている。	同左		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・本人の希望に耳を傾け、一人の時間の確保や希望入浴の時間などの把握に努める。	同左	日頃から出来るだけゆっくりと時間をとり、利用者の心に寄り添う支援は信頼関係を生み出している。利用者のつぶやき、表情や何気ない動作の変化も、心の言葉として捉え、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居以前の生活歴や家族、本人に尋ね、サービスに反映できるように努めている。	同左		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・家族やケアマネジャーからの情報や本人の心身状態をアセスメントし生活サイクルを把握している。 ・利用者の有する能力に応じた環境を整え、出来るだけ職員は利用者の行動について口を出さず見守りを行うように努めている。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(2階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(3階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・利用者との会話及び家族からの聞き取り等によりアセスメントを実施し、個別の介護計画を作成している。	同左		入居時の諸情報や、入居後の暮らしぶり、身体状況の変化、本人や家族の意向等を十分に踏まえた介護計画である。支援内容も具体的で実現可能なものとなっている。評価を踏まえて、サービス内容の追加や変更もきちんと行われている。利用者の担当制はとらずに、介護計画を全職員が共有し、同一歩調で日頃の支援にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・アセスメント表を作成し、プランとケース記録のファイルを見開きにして、プランに添った日々の生活状況を記録している。 ・職員間での申し送りやノートやカンファレンスに情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。	同左			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者や家族の話を傾聴し、その時々状況に応じた支援を行っている。 医療面での支援ではかかりつけ医師や訪問看護師と突発的なニーズに応えられるように連携している。	同左			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・母体施設と共同し、地域のボランティア活動への参加を行っている。	同左			
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医師や訪問看護師と利用者の日頃の状態や夜間の状況を記録したノートを活用し、連携に努めている。 ・利用者、家族の希望があれば、希望の医療機関への通院、受診が出来る様に支援しており、その際も連絡ノートを活用している。	同左		本人や家族が希望する病院での受診を支援している。協力医療機関とは何時でも相談できる体制にあり、週2回の定期的な往診も行われている。具体的に日常の様子を記録した連絡ノートが有効に活用されている。歯科は、訪問歯科での受診や相談がほとんどである。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(2階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(3階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護師と、相談しながら日常の健康管理を行い、必要があれば受診を行う。 ・看護師より定期的に研修や指導を受け日々の介護に生かしている。	同左		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院の際はサマリーを医療機関に渡し、連携している訪問看護より必要であれば受診を行う。 ・かかりつけ医と別に総合病院、協力医療機関の契約を行っている。	同左		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・利用者や家族、医師、看護師、ケアマネジャーと相談しながら利用者にとって、最良の方法を話し合い支援を行っている。	同左	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」をもとにして「看取りに関する考え方」を含めて、納得のいく話し合いが行われている。これまで看取り介護支援の事例は無いが、利用者の状態の変化に応じて、早めに「住みかえ」について、家族とその都度、相談が行われている。	これまでに看取り支援の事例はないが、ここを最期の所にしたいたいと希望する利用者や家族が現われることも考えられる。更なる家族との緊密な話し合いや勉強会等についての取り組みの再検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時の対応方法、マニュアル作成し、マニュアルに従い処置を行うようにしている。 ・定期的に職員が集まり、すべての職員が緊急時の処置が出来る様に実践力を身に付けている。	同左		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・緊急時のマニュアルに基づき職員に周知している。 ・隣接する母体施設の職員の協力体制も整っている。	同左	消防計画に基づき、年2回の避難訓練が消防署の指導も受けながら実施されている。地域の地理的条件から「水害対策訓練」が実施されている。その際は、地元消防団、近隣住民の協力を得ている。隣の福祉施設との協力体制も築かれており、防災機械の誤作動ではあったが、かえって協力体制を確認できた事もあった。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(2階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(3階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けやケアの際も羞恥心に配慮したプライバシーの確保を行い、職員間でも注意している。	同左	利用者の人格や尊厳、これまでの人生経験を尊重した支援が行われている。接遇一つをとっても「言葉」の使い方を大事にしている。「個人情報に関する同意書」も準備されており、個人情報はきちんと管理されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者の希望、要望を聴き対応している。 ・日常の中に選択の場面を作ったり、利用者の希望や自己決定が出来る様に努めている。	同左			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者のペースに合わせた対応を心がけており、生活を送る中で出来るだけ利用者の意思を尊重している。 ・利用者一人ひとりのペースに合わせて、少し遅く起床されたり、食事時間を遅らせて対応している。	同左			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・朝、着替えを行う時に、自分で服を選んでもらったり、お化粧を楽しまれたりとされており、その支援を行っている。	同左			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・職員と一緒に配膳や後片づけをして貰っている。 ・食事は好みに応じて、好き嫌いに対応している。	同左	家庭的な雰囲気の食事が摂れる様に、食卓の配置、座る場所、食器用のエプロンを使用しない、職員のそれとない支援等多くの配慮が見られる。早出の職員と一緒に同じ食事を摂っている。利用者は食卓拭き、食器拭き等自分の出来ることを職員と一緒にしている。利用者の嗜好を加味した管理栄養士による献立である。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(2階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(3階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・管理栄養士が献立をたてており、栄養のバランスがとれており、個々に応じて主食の量を加減している。 ・水分量は食事やおやつ時間、夜間に勤めている。また好みの物、苦手な物をあらかじめ聞いておき、提供する。	同左		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後に居室の洗面所に誘導し、口腔ケアを行っている。 ・困難事例は訪問診療時に歯科衛生士や医師に相談し、清潔保持に努めるよう支援する。	同左		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・本人の訴えや排尿パターン、体力に合わせたトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けて取り組みを行う。 ・介護度が高い方でも、日中は紙パンツタイプのオムツでトイレ誘導、夜間はオムツを使用して頂き、安眠できるよう配慮する。	同左	排泄チェック表や細かい観察によって、一人ひとりの排泄パターンや習慣が把握されている。できるだけオムツ使用のない排泄支援である。利用者の様子を察してのさりげないトイレ誘導の場面も見受けられた。ポータブルトイレ使用の場合もセッティングを考慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘の原因や及ぼす影響については職員が理解できており、便秘には十分注意を払う。 ・散歩に出かけたり、オリゴ糖や下剤を医師の指示のもと使用し適度に排便があるよう調整を行う。	同左		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・入浴は週二回と決まっているが、出来るだけ利用者の希望、体調に合わせた支援を行っている。 ・介護度が重度になっても入浴が楽しめるように特殊浴槽も利用してもらおう。	同左	基本的な入浴日は決まっているが、毎日でも入浴を希望する利用者もあり、要望に応じている。浴室は特殊浴槽室を含めて三室あり、体調や状況に合わせて、それぞれの浴室でゆつくりと入浴を楽しんでもらっている。入浴を遠慮する方にも、気分転換の後入浴を誘う等の工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(2階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(3階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの体調や体力に合わせて、昼寝を行ったり、談話室でもゆっくり出来る様にソファを用いて、様子を見ながら使用して頂く。	同左		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局と連携し写真入りの薬の説明書を利用している。 ・分からない時は、薬局や訪問看護師に尋ねる関係を築いている。	同左		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・食後の片づけや、洗濯たたみ、物干しを他の入居者と一緒に手伝ってもらうよう促す。 ・一緒におやつ準備をしてもらったり、1Fにて花を植えて貰ったりと、楽しい雰囲気作りが出来る様に支援を行っている。	同左		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・外出は利用者の体調を見ながら、出来るだけ意志を尊重し支援を行っている。 ・本人の希望にそってお墓参りに行ったりしている。	同左	近くの港や近所までの散歩、広い敷地内での散策や花見、日光浴、買い物など日常的にも外出の機会が多い。希望により菖蒲やコスモス、ひまわり園への外出、昇開橋やひな祭りの見学、外食、その他家族の協力も得ながらのバスハイクやドライブでのお出かけも多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者の能力に応じた支援を行っている。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(2階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(3階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者が自由に通信できるように支援を行っている。 ・寂しそうな時や、そわそわされている時は声かけを行い、電話をかけたがりしている。	同左		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・カウンター式の台所に隣接している共同の生活空間があり、季節感のある壁紙を作成し装飾したり、穏やかで家庭的な雰囲気作りに心がけている。 ・電気も電球色とし温かみのある環境作りに努めている。窓からは筑後川が一望でき、桜の季節には満開の花を楽しむ事が出来る。	同左	利用者のほとんどが昼間利用している談話室は、窓からの自然光で明るく広々としている。素晴らしい風景は時間や季節の移り変わりを感じさせてくれる。ソファ、テーブル、畳の間の配置が工夫され、利用者はここで思い思いに過ごしている。室温や湿度も快適に保たれている。トイレの場所表示も利用者に馴染みのある言葉「便所」にする等、様々な工夫が見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・椅子やソファを設置し、利用者様が個々にくつろぎ、お互いが親睦を深められるような空間作りを行っている。	同左		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に家族への利用者の使い慣れた物品の持ち込みについて十分説明を行い、居室の環境作りを行っている。	同左	使い慣れた家具や馴染みの品物の持ち込みに特別の制限は無く、各居室がその方らしく、落ち着いて過ごせる場所になっている。以前の利用者が残された家具を使用している方もある。趣味の手芸道具、お気に入りの服、家族の写真、仏壇、アルバム、その他色々な物が見受けられる。畳を利用している方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレの場所や浴室の場所、自分の部屋が分かるように大きく表示したり、目印を付けている。 ・自動センサー式蛇口など、安全に自立した生活が送れるように心掛けている。	同左		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない